

人権教育講演会 「パパは女子高生だった」

～自分らしく生きること～

令和2年11月6日（金）

11月6日金曜日の5、6時間目に、Like myself 代表 前田 良さんに「パパは女子高生だった」という演題で「自分らしく生きること」をテーマに講演いただきました。

1年生から3年生まで全校生徒と職員、数名の保護者の方々と聴きました。

身体は女性である。しかし、自分の心は男性であることに、幼少期から悩まれました。そのご自身の葛藤、悩み、そして心無い声に「生きることがつらい」という思いがありました。しかし、「男性として自分はまだ生きていない。もう少し生きてみよう。」と前を向いて歩きました。やがて、大切な出会い・巡り会いを経て、かけがえのない大切なご家族を築き、守っていらっしゃる現在。「自分は今幸せです。聞いてくれてありがとう。そして知ってくれてありがとうございます。」というメッセージで締めくくられました。また、ご自身の歩み、ご家族の写真をを見せていただきました。

ご講演の後、「様々な、生きづらさ・人権に関わる問題が現存します。前田さんは、どうすることが解決へ前進することにつながるとお考えですか？」という質問をさせていただきました。「個々を見ること・接することではないでしょうか」と返答をいただきました。前田良さんの生き様を語っていただき、「聴くこと」そして「知ること」それが、理解へとつながっていける第一歩になるのでは、と感じました。本当に心に残るすばらしい講演でした。

以下、生徒の感想の一部を掲載します。

*自分が当たり前だと思っていることと、他の人が当たり前だと思っていることが違うことがあるかもしれない。身近な人を理解するのが難しく、悩むこともあります。しかし、その人を「思いやる」だけでも全く違うことに気づきました。前田さんのカミングアウトやご家族のことを私は全くネガティブな感じには思いませんでした。

*「幸せを決めつけないでほしい」という言葉にすごく共感しました。家族の形だって、生き方だって人それぞれです。自分らしく生きることが、一番の幸せだと思います。

*前田さんが「男性に性を戻す」と何度もおっしゃっていました。今まで私は、「男性・女性に性を変える」と認識していました。知らず知らずのうちに差別的な言葉を使っていることに、ハッとさせられました。

*様々な価値観・考え方があることを念頭において、性以外のことにおいても人を尊重できる人になりたいと思いました。

*普段自分の気にしていることや、嫌なことがどれほど小さかったかというのを思い知りました。自分が何気なく発している発言や言動を恥ずかしく思い、相手の立場になることの大切さを知りました。

*終わりに見せていただいた家族四人の写真。作り笑いではない笑顔でした。とても幸せそうな写真だと思いました。

